

記 録

岡山県自然保護センターにおけるドブネズミの初記録

岡山県自然保護センター 池本 茂豊

First record of norway rat, *Rattus norvegicus*,
at Okayama Prefectural Nature Conservation Center

Shigetoyo Ikemoto, Okayama Prefectural Nature Conservation Center

Abstract

This time, 1 species, *Rattus norvegicus* (Berkenhout), is confirmed. As a result, 25 species of mammal were identified to the list.

キーワード：岡山県自然保護センター, 哺乳類, ドブネズミ, 目録, 追補

はじめに

岡山県自然保護センター（以降、センターと称す）における哺乳類の確認種は、「自然保護センター研究報告 第28号 岡山県自然保護センターの哺乳類(池本, 2021)」によれば7目13科24種となっていたが、今回新たにドブネズミ1種を確認したので報告する。

センターの場所は岡山県の中部の東寄り、吉備高原台地の南端にあたる和気郡和気町田賀にある。森林と大小の二つのため池（上池、田尻大池）からなる敷地は約100 haにおよぶ。森林はアカマツ林やコナラ等の優占する夏緑広葉樹林が発達している。また敷地内には身近な動植物と触れ合うことのできる「虫の原っぱ」等の観察フィールドの他、国内屈指の規模を誇る人工湿原である「湿生植物園」が整備されている。地質は深層まで風化した花崗岩類であり、表層はいわゆる真砂土に覆われている。位置座標は北緯34° 50' 55", 東経134° 3' 20"。標高は約200-300 m。年間平均気温は13.3℃、年間降水量は1,328 mm（岡山県自然保護センター, 2011）であり、気候的には年間を通じて温暖、積雪は年に数回程度、降水量に関しては少雨傾向といえる。

データ整理の方法

2021年1月から2023年12月までの期間におけるセンター一般利用者からの提供情報、センター職員等の目撃や撮影写真による情報等を整理した。

結 果

新たな確認種としてドブネズミ（ネズミ目ネズミ科）を挙げる。本種は2023年9月9日朝、著者により上池周辺の遊歩道上で捕食跡のある死体1個体が確認された。発見時は内臓を中心に腹部の大部分が失われ、主として頭から胸、腰から尾が残っていた（写真1）。大きさからドブネズミかクマネズミと推察され、頭骨標本を作成後、阿部（2020）を基に種名の同定をおこなった結果、ドブネズミと判明した（写真2）。飯島・土屋（2015）によると本種は世界に広く分布し、日本全国に分布するとされる。「岡山県野生生物目録2019 Ver. 1.4（岡山県, 2023）」によれば生息環境区分が「街・下水」とされ、岡山県南部に普通、同県中北部に「？」と記されている。これらのことからセンターでの生息は、確認地点からほど近いタンチョウ飼育施設やセンター棟の周辺に限られているのではないかと推定さ



シオカラトンボ属の脱皮殻



ハッピーヒルの葉に多くいたアマガエル



ナガゴガネグモの巣にかかるイナゴ類



イナゴを捕獲したチョウセンカマキリ

れる。また本種の確認により、センターにおける哺乳類の確認種は7目13科25種となった(表1参照)。

引用文献

阿部永, 2020. 日本産哺乳類頭骨図説. 北海道大学図書刊行会. 279pp. 北海道.
 飯島正広・土屋公幸, 2015. リス・ネズミハンドブック. 株式会社文一総合出版. 88pp. 東京
 池本茂豊. 2021. 岡山県自然保護センターの哺乳類～岡山県自然保護センター 哺乳類リストの改訂～. 岡山県自然保護センター研究報告(28): 37-47. 岡山県自然保護センター.
 岡山県 (岡山県野生動物調査検討会編). 2023. 岡山県野生動物目録2019 ver. 1. 4. 1 哺乳類. 岡山県環境文化自然環境課ホームページ. https://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/722826_6560096_misc.pdf (2023年6月13日更新ファイル) .

岡山県自然保護センター 哺乳類目録 (追補種のみ)

ネズミ目 RODENTIA

ネズミ科 Muridae

ドブネズミ *Rattus norvegicus* (Berkenhout)

1, Jul. 9, 2023, 採取: 池本 茂豊.



写真1. ドブネズミ発見状況 (2023年9月9日, 撮影者: 池本茂豊, 場所: 上池周辺).



写真2. ドブネズミ頭骨標本

表1. 岡山県自然保護センター確認哺乳類リスト (2023年12月1日改訂, 追加された種は赤字で示した.)

目名	科名	和名
トガリネズミ形	トガリネズミ	ジネズミ
	モグラ	ヒミズ コウベモグラ
コウモリ	キクガシラコウモリ	キクガシラコウモリ
	ヒナコウモリ	モモジロコウモリ
		アブラコウモリ
		ユビナガコウモリ コテングコウモリ
サル	オナガザル	ニホンザル
ウサギ	ウサギ	ノウサギ
ネズミ	リス	ニホンリス
	ネズミ	カヤネズミ
		アカネズミ
		ヒメネズミ ドブネズミ ハツカネズミ
ヌートリア	ヌートリア	
ネコ	イヌ	タヌキ
		ホンドキツネ
	イタチ	テン
		ニホンイタチ
		シベリアイタチ アナグマ
鯨偶蹄	イノシシ	ニホンイノシシ
	シカ	ニホンジカ

記録

岡山県におけるヒナノシャクジョウとホンゴウソウの新産地

岡山県自然保護センター 柿 真理
 岡山市 難波 靖司

New locality of *Burmannia championii* Thwaites and *Sciaphila nana* Blume in Okayama Prefecture, Japan

Makoto Kaki, Okayama Prefectural Nature Conservation Center
 Yasushi Namba, Okayama City

Abstract

A new locality of *Burmannia championii* Thwaites and *Sciaphila nana* Blume were discovered in Okayama City, Okayama Prefecture, Japan. This is the third record of *B. championii* and the fifth record of *S. nana* in Okayama Prefecture.

キーワード: ヒナノシャクジョウ, ホンゴウソウ, 新産地, 岡山県, 岡山市, 菌従属栄養植物

はじめに

筆者らは2022年, 2023年に, 岡山市内において, ヒナノシャクジョウ *Burmannia championii* Thwaites, ホンゴウソウ *Sciaphila nana* Blumeの2種を同所で確認したので報告する. ヒナノシャクジョウはヒナノシャクジョウ科ヒナノシャクジョウ属の多年草, ホンゴウソウはホンゴウソウ科ホンゴウソウ属の多年草であり, 両種とも生きるために必要な栄養を光合成に代わって共生する菌に依存する菌従属栄養植物である(大橋ほか編, 2015). 両種は岡山県においては極めて希少な種で, 岡山県版レッドデータブック2020(岡山県, 2020)で, ともに絶滅危惧I類に選定されている. また, 国内のレッドデータをまとめたウェブサイト「日本のレッドデータ検索システム」(NPO法人野生動物調査協会・NPO法人Envision環境保全事務所, 2007-)によると, 西日本を中心として30を超える都府県で両種が選定されているほか, 環境省の公表しているレッドリスト2020(環境省, 2020)において, ホン

ゴウソウが絶滅危惧II類に選定されるなど, 両種とも全国的にも希少な種である.

両種の岡山県内での既往記録として, ヒナノシャクジョウは総社市(岡本, 2019), 備前市(片岡, 2022)の2例があり, ホンゴウソウは岡山市1例目(狩山, 2000), 高梁市(小橋, 2005), 岡山市2例目(山尾・波田, 2008), 総社市(岡本, 2013)の4例がある. 本報告により, ヒナノシャクジョウは3例目, ホンゴウソウは5例目の自生地確認となる. なお, 生育地保全の観点から詳細な位置情報は非公開とする.

植物の同定は「改訂新版 日本の野生植物」(大橋ほか編; 2015, 2016a, 2016b, 2017a, 2017b)に準拠し, 学名は「BG Plants 和名-学名インデックス」(米倉・梶田; 2003-)に従った.

観察結果

1. 両種の生育を発見した環境

今回, 両種を発見した地点は, 岡山市内の山林で, 表層地質は細粒花崗岩類からなる谷である